

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570110957		
法人名	有限会社ルーク		
事業所名	グループホームソフトハンド勝平		
所在地	秋田県秋田市新屋勝平町10-30		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームソフトハンド茨島との連携を密にし、より良いサービスの向上、土地を活かした園芸交流をしています。その他の交流行事を何処よりも多く企画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度評価を活かし、今年度、職員一丸となって新たな理念の構築に取り組みました。以前からの「街角福祉！」を前面に出され、端的で身近に感ずることの出来る分かりやすい理念を作り上げています。その人らしさを大切に、やすらぎとふれあいを大切にされたケアを日々の生活の中で実践されています。利用者とのコミュニケーション、機能維持のために行われる生活リハビリや数多くの外出支援、他者との交流によって、生き活きとした利用者の表情が確認できます。運営推進会議での意見や提案を活かし、事業所の課題を見つけ、改善、運営に反映され、今後の事業運営にさらなる期待が持てそうです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	分かりやすく新しい理念へ変更し、施設内の見える所へ理念を提示すると共に、月二回の会議にて理念の共有が出来ている。	前回評価で指摘のあった部分について、端的に分かりやすく、「目指せ！街角福祉」を職員と共に考え、「その人らしさ」「やすらぎ」「ふれあい」を大切に支援することを理念に掲げ、事業所内に掲示すると共に会議で共有され実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入され、回覧板等で情報を得る等され、地域行事への参加、地域の方の訪問、散歩時に気軽な挨拶など、地域の一員として日常的な交流を持たれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	現在は遊びに来てくださっているご老人や来客に対して、生活へのアドバイスをしたり、バイタルチェックサービスをしたりさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	およそ二ヶ月に一度の運営推進会議を開催し、利用者様とご家族、地域の皆様にサービスや取り組みを報告しご意見をいただき、そこで頂いた意見をサービス向上に生かしている。	概ね2か月に一度、定期的開催されるようになり、事業、事故、行事報告等が行われ、その時々話題で、意見交換が行われています。参加者から、いろいろな気づきや指摘を受け、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にも、都度、依頼や相談事がある場合は行き来し、適切な対応をしている。	スプリンクラー等の設備に対する補助金事業のことや制度について、電話や直接出向いで相談をしたり、指導を受け、連携をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会議でもとりあげ、利用者の訴えを優先し確実に取り組んでいる。	研修会を開催され、職員は身体拘束をすることはしないことを十分に理解され、実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会議でもとりあげ、利用者へ不快な思いをさせないよう、言葉使いや態度、サービスを徹底し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には参加している。理解出来るよう説明し、実際に話を進めているケースがあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入所者様とご家族に対し管理者が十分に口頭と書面にて説明した上で、理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を自由に言える環境づくりをしている。現在、ご家族でも、外部の方からも意見をいただけるように、意見箱を設置を行い、その意見に対し速やかな対応をし運営に反映している。	利用者からは、日常会話の中でさりげなく要望を伺い、家族等からは面会時や電話等で意見を伺い運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等は職員を主役とし、皆で決めた内容を反映させて、日ごろから意見交換できている。	日常業務の中での気づきや提案を職員会議等で話し合い、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年次有給休暇の他に、各自必ず消化しなければいけない特別休暇を設けている。又希望の公休は対応できている。技術向上に向けやる気を出した職員には研修費の支給など最大限のバックアップをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役所等からの研修にはほぼ参加できている。足りないものは職員から研修したい内容、議題を出してもらい職場内の研修で補っている。その他にもキャリアパス等の講習を行い技術アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ケアパートナーズへの参加など以前より同業者との交流が増えている。管理者計画作成者と協力し独自のネットにより交流し、職員同士の交流も少しずつではあるが出来ている。ホームページも開始している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と計画作成者が初期段階でヒアリング面接をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その通り行なっている。又、以来がある都度、話し合いを設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者同士でも職員とも、お互い出来る事を把握しあい、助け合える環境作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からの相談受付と共に本人の状態を常に情報交換し、ご家族も一緒になって支援できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方への行事への参加や、遠方に居る友達との電話や手紙のやり取り等を進めている。	家族の協力も得ながら、自宅訪問や墓参り等が行われている他、手紙や電話で関係が継続できるように支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でも職員とも、お互い出来る事を把握しあい、助け合える環境作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了しても相談を受け付け、何時でも対応できる事を口頭などで伝えている。実際の対応は現在ありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を尊重しケアプランに反映し支援できている。又、困難な場合は本人のと共に検討している。	日常会話の中で、日々アセスメントと考え、記録に残され、情報を共有されると共に思いや意向の把握に努めています。また、困難な場合は、表情や仕草から利用者本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの意見を尊重しケアプランに反映し支援できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにもその日の言動や表情、過ごし方が解るように明確に記録し報告する事で把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの意見を尊重し、また、各医療機関からのアドバイス、職員やご家族からの意見も考慮しケアプランに反映し支援できている。	家族等からは面会時や電話等で状況報告後、意向の確認が行われ、利用者、職員からの日々の意見をまとめ、暫定の介護計画を作成され、フィードバックによって現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その通り行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その通り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望通りの医療機関へ受診し医療を受けている。	利用者・家族等の希望のかかりつけ医が受診でき、付き添いや薬の受領支援が行われています。また、受診後の報告も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りを行い、必要であればかかりつけ医師へ相談し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の洗濯や身の回りの事、本人やご家族の希望があれば支援している、又、都度医療機関からの情報交換を行い状態把握とご家族へのアドバイスをこなしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針を共有していると共に、段階に合わせた支援が出来る。	入居時に医療行為が必要となった場合や設備面での対応困難となった場合など、事業所で出来ること・出来ないこと等を十分に説明され、情報を共有し、出来るだけの支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時について職員と研修会議にて十分に話し合いが出来ている。また、AEDの設置と講習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年二回の避難訓練の実施と共に、ご近所の消火機関との連携取る事により協力体制を整えている。	スプリンクラーが設置され、年に2回の避難訓練も行われています。また、災害時の避難経路等のハザードマップや緊急時の対応などについても話し合いが持たれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に徹底し厳守している。	利用者のプライバシーに十分に配慮した声かけが行われています。なお、「おばあちゃん」の呼称について十分に検討されることを期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からの買い物の自由、余暇活動など、小さな物事に対しても選択していただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物の希望、余暇活動への参加、本人の意思を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	美容室への通いや、衣類化粧品等買い物の自由と都度の付き添いを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し食事提供が出来ている。又楽しみながら食事できる様に、人間関係も把握した各種当番、席配置で食事をしている。	利用者ができることを積極的にお手伝いができるように、当番制を設けられ、好みや力を活かされ、会話も多く、楽しんで食事を摂られている様子が窺えました。なお、職員と一緒に食事を摂ることの意義を再度検討されることを期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その通り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまでの見守りと介助にて、毎食後の口腔ケアをチェック表にて確認し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その通り行なっている。	チェック表を用い、排泄パターンを知り、声かけや誘導によって、トイレでの排泄支援で、失禁の減少や自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日20分程度の運動と、医師からの指導の下に本人に合った食事提供と共に下剤調整にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者からの希望や、願いがある場合は、時間や日付を変更し対応している。	毎日でも入浴は可能ですが、最低でも3日に1回は入浴できるように支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その通り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用に対し研修を行い、薬剤師からのアドバイスも取り入れ状態把握や変化に迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	医師のからの指示を受け、出来る限りの自由を認め、多くのレクリエーションや外出を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者様の希望に沿って出かけられるように希望を取り支援している。又普段いけない所へも、働きを行い、声を聞き出かけられるようにしている。	交通量も多く、日常的な散歩等はなかなかできませんが、利用者の希望に沿って、河川敷の散歩、買い物、食材の買い出し、外食、地域行事への参加、ドライブ等、外出の機会を多く持たれています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には付き添い職員に頼らず、出来るだけ本人がお金を持ち、支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に面会でき、又手紙や電話の自由も認めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と共に皆が過ごしやすい環境を整備できるようにしている。五感を刺激するように、季節に沿った飾り等を取り入れるようにしている。	不快な音や臭いもなく、テーブルやソファ、テレビの配置、小上がりの畳スペース、季節ごとの作品、行事の写真等で家庭的な雰囲気を醸し出し、居心地良く過ごせるような工夫が観られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールと和室での気の会ったご利用者様同士と交流が出来ている他、自由に自室に行き休めるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを用意して頂き、居心地の良いその人らしい居室となっている。	テーブルや椅子、テレビ、筆筒、写真、観葉植物等、本人にとって必要と思われる品が持ち込まれ、自らの居室として居心地の良い空間を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を自分で干せるように高さをと調整した物干しを自室や、駐車場に作ったり、ご利用者様の状態に合った車椅子、歩行器等を用意し活用している。		